

前時の確認

【意図されたカリキュラム】を使いこなす③

1. 渡部論文の紹介

- ①社会問題提起力育成論に基づく
単元開発法が説明できる
- ②単元開発法に対して意見を主張できる

2. カリキュラムデザイン演習

社会問題提起力育成論に基づく単元開発法
を活かして授業構成をデザインできる

3. 成果発表・投票

「私たちの単元案」の良さと特徴を説明できる

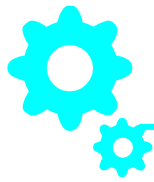
3. 渡部説：政策を伝達する装置

→他の選択可能性と、それが排除されている**構造的な理由**を暴き出そう



投票結果

1位	1班	8票	◎
1位	5班	8票	◎
3位	3班	7票	



投票用紙に書かれていた意見

1. 小学生はランドセル

- ・身近なランドセルの自明性を考えさせられました
- ・わかりやすく、身近

2. 環境に悪いディーゼル車

- ・他の班は授業過程の段階があいまいで、教材が不適切というふうに感じたから

4. 石油可採は有限に悪いディーゼル車

- ・4つの構造が関連付けられていてよかった
- ・知的好奇心に訴えると思う
- ・経済について考えるのに良い授業だと思う

5. 憲法は平和主義

- ・きわどい内容だがよかった
- ・タイムリーな話題、興味ひきやすい





掲示板でのディスカッション（壁書き）

1. 筆者は社会問題提起力を次のように考えている。○既存の言説・制度・政策・慣習など、その存在の自明性（当然の存在とみなす）を疑い、その偶有化をはかる（ほかの選択肢・可能性を探る）ことで、そのあり方を根源から問いかける能力のこと。○なぜそれが自明視されてきたのか、その原因を読み取ること。

確かに、ここでいう社会問題提起力は将来的に（学年が上がるにつれて／年をとるにつれて）必要になる能力だと思います。しかし、「疑う」という行為は、まず基礎となる事象がないと生まれません。つまり生徒は、学校で習うような内容や教科書に書いてあることを基礎知識として自分の中に取り込み、それを知って初めてその考えは疑う余地があるのではないか、もっと他に考えることができるのではないか、と自分に問うことができると思います。だから、社会問題提起力を育てるためには、自明視されてきたものを習う必要があると思います。

この能力は、政治参加する主権者として重要な資質だと考えます。一面的な見方・言説のみを信じ、別の見方・言説に目を向けない人は、誤った判断を下す恐れがあるのではないのでしょうか。

先月行われたイギリスのEU離脱を巡る国民投票でも、離脱派が離脱の結果国民保険に充当できる金額などについて誇張した主張を流し、投票後にそれが嘘だったことを認めたそうです。信じて投票した国民の中には後悔する声もたくさん挙がったといえます。

このような事態を防ぐには、中学・高校の時期から複数の言説や公約を示し（相対化）、どれが正しいかを自ら調べて判断させる教育が必要だと思います。

掲示板でのディスカッション（壁書き）

2. 教材は、子どもたちの日常にある言説・制度・政策・慣習の中で、その存在が自明視されているもの、そして、子どもたちがそれを分析することで何らかの「社会の大きな構造」を感じ取れるものであれば何でもよい。

地理歴史の授業を構成する上で「社会の大きな構造」に気づかせるためにはテーマによって向き、不向きがあると思った。実際に社会構造分析の段階になって構造図が思いつかないような分野が出てくると感じた。歴史で言えば「文化史」の分野であったり、地理でいえば、「世界の自然環境」の分野であったりと、構造というよりは事象の羅列に近い内容になってしまうことが多い單元ではこの授業理論に基づく授業はしづらいのではないかと考えた。

掲示板でのディスカッション（壁書き）

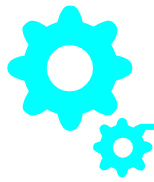
3. 授業は学習者である生徒のためにある。この社会問題提起力の育成の上で前提となる自明視というものも、基本的には学習者である生徒（と生徒の周囲にいる大人たち）が自明視してさえいれば良いのであって、指導する側である教師（=意識の高い人間）は少なくとも気が付いている必要がある。

教師が「ゾーン1」の外にある社会問題に気付くためには、常に物事の裏にあるもの、通説以外の説を探求するよう努力しなければならないと思います。

ただ、そのためには、専門書を読んだり、大学の講義を受けたりする必要があると思いますが、普通の教師はそうした時間がなかなかとれないのではないのでしょうか。それゆえ学生の頃に、「物事の裏にあるもの、通説以外の説を探求する」学習を積む必要があると感じました。

また、これは教職全般にかかる問題ですが、現職の教師が読書などによって授業開発する時間を十分確保できるよう、授業以外の職務負担を減らすことが喫緊の課題だと思います。

何が「自明視」されているのか、という判断も難しいと感じました。個人的には、やはり教科書の記述が「自明視」の代表ではないかと考えるのですが...



掲示板でのディスカッション（壁書き）

4. 教師は常に批判理論についての教養，そしてその研究成果を学び，自身も社会を分析できるそうした人間になることが求められるのである。

たしかにその通りだと思うが、どれだけの教師がそれを貫けるのだろうかと疑ってしまう。自分はそうなれるのか……。教師になって、そうあろうと努力し続けるのは相当な労力を要するのではないか……。

やってみなきゃわからないことだし、やる前から諦めるのはおかしいと思うが、「できません！」と言えない自分がいる。

未来に希望を抱いてこれから教育実習に挑む人が多いこの授業で、こんな後ろ向きな発言はよくないとは思いますが実習前と実習後で、この文の受け取り方が変わる人も（わたしのように）いるのではないのでしょうか。

確かに常に研究成果を学び続ける，ということは，理想としては確かなものであると思いますが，現実に行う時間があるのかどうか，ということは疑問に思います(今の時点でそう思うてしまうことは良くないのかもしれませんが，，，)。教職の講義を受ける中でも，教科指導だけでなく，校務分掌で割り当てられた役割など，果たさなければならない職務が多くあることを学ぶ中で，どこまで時間を割くことができるか，ということは難しいのではないかと感じる事がしばしばあります。

しかしながら，完全に行うことは難しくても，できるように努力しよう，という姿勢を持ち続けることは大切なのではないかなと思います。そのためのモチベーションを保つことは大変かもしれませんが，，，



掲示板でのディスカッション（壁書き）

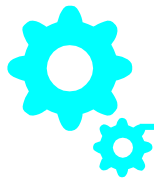
4. 教師は常に批判理論についての教養，そしてその研究成果を学び，自身も社会を分析できるそうした人間になることが求められるのである。

私もEさんやMさんと同じ意見を持っています。

研究成果を学び続けることは大切であるが，現実問題どこまで出来るでしょうか。 教員は高度な専門知識や技能を求められているのでやっていく必要がありますし，私もそうしたいです。従って，教員が教科教育を重視できるような環境づくりは必要不可欠なのではと思います。

例えばですが，民間企業では，誰でもできる内容の業務はアルバイト・パートを雇って人件費を抑えて，正社員により高度な内容の仕事をさせるというのがよくあります。本当に教員の仕事内容は100%教員がしなければならないものでしょうか。もしくは教員じゃないとできないものなのではないでしょうか。

教員の仕事や業務の見直しが求められているのかもしれない。



掲示板でのディスカッション（評価規準）

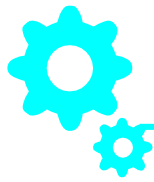
私の理想は、テンポよくわかりやすい発表です。（課題に適切に答えていて、必要な情報を無駄なく伝えられているもの）しかし、発表としての精度がみんな高くなってきているので、評価基準はそこではないと思い自分にはその発想はなかったな、生徒が食いつきそうなテーマだという視点とそのテーマから学べる（引き出せる）ことがどれだけ社会をわかることにつながるかという視点から判断しました。

前者は言い換えるなら、中学生が「言われれば、確かにおかしいぞ」と思えるテーマであること。幼稚すぎてはいけないし、高度すぎてもいけない。後者はそのテーマのもと学びを進めれば、例えば、経済システムの大枠をとらえられるとか、歴史の大きな構造をとらえられるとか。わかることの規模がある程度大きいほうがよい。つまりは、「論文にある理論をうまく再構成している」と思えるもの、なのかもしれないです。

私にとって「いい発表」の条件とは、①私にとって意外であること、②分かりやすいことです。

①に関しては、Eさんが述べている「自分にはその発想がなかったな」という視点と似たものです。そこから私自身が生徒になってみて発表された内容の授業を受けてみたいかが評価の基準です。②に関しては、草原先生が指示された質問への解答内容を端的にパワーポイントでまとめられているか、発表者が分かりやすく言葉にできているかという視点です。私が述べる①は、大坂さんが述べる条件②と大きく重なるところがあると思います。私が述べる②に関しては、質問への答えの内容だけではなく、デザインや発表方法によって評価が変わるところがあるということです。

投票するときは「そういう発想があるんだな」と「解答に納得できる」を重視しています。甲乙つけがたいときには、そのパワーポイントのデザインや発表態度を考慮しています。



掲示板でのディスカッション（評価規準）

私は①論文の理論に沿って作られているかどうか②全体的な構成にまとまりがあるかが評価基準です。

①は最低条件だと思っています。これができていない場合は優秀作品から外します。しかし、これだけだと甲乙つけがたい状況になってきています。

②についてですが、内容のまとまりを認識するのはPowerPointの内容であったり、発表の仕方であったりを総合して構成のまとまりを評価しています。

これでも評価ができなかったら、テーマの面白さ・深さを感じられるかどうかで選びます。

私がプレゼンテーションを評価する際には、

①テーマ（今回ならば子どもが当たり前だと考えることを覆す理論による授業づくり）に沿っているか

②MQによって子どもの探求心があおられるものか、また、授業展開中のヤマ場やMAが子どもの意思決定に役立つものとなりうるか

③小学校で習った範囲では考えることができない理論や知識を与えうるか

④中学生にとって理解できる内容か

の四点に注目するようにしています。①はプレゼン課題の前提となりますが、それをいかに実際の授業構成にうまく組み込むか、そしてそれが子どもにどのような力を与えうるだろうか、といったことを踏まえて評価するようには心掛けています。しかし、発表の順番や発表者のプレゼン能力等が関わりあい、かつそのインパクトの大きさや話の分かりやすさから本当に良いプレゼンはどれだったんだろうと考えてしまうこともしばしばあります。